

平成28年度第2回
野田市廃棄物減量等推進審議会

会 議 次 第

《日 時》 平成28年11月28日（月）
午後2時から
《会 場》 市役所8階大会議室

1 開 会

2 会 長 挨 拶

3 副会長の選出について

4 議 事

議案第1号 指定ごみ袋無料配布枚数の見直し及び紙おむつ対策等について

議案第2号 食品廃棄物の削減（食品ロス）について

5 閉 会

【資 料】

- 資料1 指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについて
- 資料2 農家世帯に対するアンケート調査結果
- 資料3 おむつをしている2・3歳保育園児に係るアンケート調査結果
- 資料4 飲食店に対するアンケート調査結果

指定ごみ袋無料配布枚数の見直し及び紙おむつ対策等について

10月7日に開催した平成28年度第1回審議会において、指定ごみ袋無料配布枚数の見直しは、9・10月の交換・販売枚数等の実績とともに空隙調査の結果、調整区域の容量満杯の比率が低いことから、更に農家世帯の皆様の引換状況を調査することとし、継続審議となりました。

9・10月の交換・販売枚数等の実績は資料1のとおりです。また、農家世帯に対する調査結果は資料2のとおりです。

1 指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについて

(1) 4カ年の指定ごみ袋の引換状況について（資料1抜粋）

①28年度の4月から6月までの3カ月分の指定ごみ袋無料交換枚数は、27年度同期間中と比較すると約87.8万枚の大幅な増となっています。7月から10月までの4カ月では増減を繰り返していますが、1.7万枚の増となっており、合計としては、約89.5万枚前年を上回っています。

◎無料分

単位：枚

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	4～10月 までの計
27	594,360	409,240	470,950	536,050	420,300	428,530	466,010	3,325,440
28	881,040	897,570	573,920	433,560	535,390	459,460	439,590	4,220,530
差	286,680	488,330	102,970	△102,490	115,090	30,930	△26,420	895,090

②28年度の4月から7月までの4カ月分の指定ごみ袋有料販売枚数は、27年度同期間中と比較すると約4.8万枚の増となっています。8月から10月までの3カ月を比較すると逆に1,315枚の減となっており、有料販売枚数は若干ながら減少に転じていますが、合計としては、約4.6万枚前年を上回っています。

◎有料分

単位：枚

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	4～10月 までの計
27	11,015	12,500	13,750	14,845	18,655	15,040	22,605	108,410
28	20,780	33,475	18,655	27,000	18,470	13,910	22,605	154,895
差	9,765	20,975	4,905	12,155	△185	△1,130	0	46,485

(2) 農家世帯に対するアンケート調査結果について（資料2）

農家組合長世帯の協力を得まして、171世帯に対して郵送によるアンケート調査を実施しました。

まず、27年度は、無料指定ごみ袋分で足りたかどうかの質問2では、足りた方は、73.4%、足りなかった方は、22.4%となっております。

質問3で、27年度の無料指定ごみ袋を何枚使用したかをお聞きしたところ、101枚以上120枚以下が1番多く、ご回答いただいた132世帯の総使用枚数は、13,124枚であり、1世帯あたりの年間使用枚数は、約99枚となっております。これらのことから、空隙調査の結果とあわせて考えますと、無料指定ごみ袋の使用枚数は、全世帯の平均とほぼ変わらないことから、1回あたりの可燃ごみの排出量は、市街地、新市街地と比較して少ないですが、排出回数は変わらないことが考えられます。

(3) 今後の進め方について

指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについては、市街地、新市街地、調整区域でも交換枚数は変わりなく、27年度の実績だけをみれば20枚以上の余りがあることから、交換枚数を削減することは、可能と考えられます。しかし、28年度の無料交換・有料販売枚数は、年度当初突出して交換・販売枚数が多く、27年度の10月時点で比較しても、無料で90万枚、有料で4.6万枚上回っています。通常年度末にかけて交換販売枚数が多くなるような例年にない枚数の動き方を示しています。

今年度の特殊な枚数の動向を考慮し、年度末までの枚数の実績をみた上で、あらためて審議会に報告し、30年度に見直しできるかを検討したいと考えております。

28年度の世帯人数ごとの無料指定ごみ袋容量と枚数

世帯人数	袋の容量	枚数
1人	20L	120枚
2人～4人	30L	120枚
5人～7人	40L	120枚
8人～10人	40L	130枚
11人～13人	40L	140枚
14人以上	40L	150枚

なお、平成24年3月に策定した「野田市一般廃棄物基本計画（ごみ編）」で目標となっている、1人1日当たりのごみ排出量の30%削減を目指しておりますが、目標達成にはまだまだ厳しいことから、29年度に基本計画に係るごみ排出量削減の施策の見直しを行いたいと考えております。

2 紙おむつ対策について

紙おむつ対策等については、指定ごみ袋の無料追加交付を受けている高齢者、障がい者世帯へのアンケート調査の結果、約70%以上の世帯で無料の指定ごみ袋で足りているとの回答がありました。また、乳幼児については、2歳未満まで無料追加交付の対象としているなかで、乳幼児健康診査時のアンケート調査では約96%の2歳児がおむつを使用していること、また、約56%の3歳児がおむつを使用していることから、更に保育所等で実態調査等を実施することとし継続審議となりました。

(1) おむつをしている2・3歳保育園児に係るアンケート調査結果について（資料3）

市内にある21保育所（園）に対して、2・3歳児がおむつをしている実態調査を行った結果、2歳児では、57.9%、3歳児では、11.4%の幼児がおむつをしておりました。健康診査受診者からのアンケート調査と比べいづれも使用比率は低くなっておりますが、保育所（園）では、トイレトレーニングを行っていることなどもあるものの、健康診査受診者からのアンケートでは就寝時やお出かけ時等、一時的に使用している幼児も含まれていることなど、数値が過大となっていることも考えられます。このことから、日中のおむつの使用状況である保育所（園）の調査結果がより実態に近いものと思われ、2歳児の半数以上がおむつをしていることが考えられます。

調査種別	2歳児の おむつ使用比率	3歳児の おむつ使用比率
健康診査受診者に対する アンケート調査結果	95.8%	55.3%
保育所（園）の調査結果	57.9%	11.4%

(2) 今後の進め方について

第1回審議会資料でお示した資料では、指定ごみ袋の無料追加交付を受けている高齢者、障がい者世帯では、無料指定ごみ袋で足りている世帯が約70%以上でした。高齢者、障がい者世帯の紙おむつ対策については、今後、平成30年度で指定ごみ袋の配布枚数の見直しの際に併せて検討していきたいと考えております。

しかし、乳幼児世帯に対しては、現在、2歳未満の乳幼児に対して40ℓの袋60枚分を1人1回限り交付しておりますが、乳幼児健康診査受診者のアンケート調査や保育所（園）での実態調査の結果を踏まえ、3歳未満の乳幼児まで拡充したいと考えております。

また、併せて高齢者、障がい者、乳幼児（里帰り出産を含む）世帯におけるおむつの排出の利便性を考慮して、現在交付している指定ごみ袋の大きさを40リットルから20リットルとし、枚数を倍にすることにしたいと考えております。

なお、乳幼児へのおむつ支給については、従来出生届時にすべての指定ごみ袋引換券を交付しておりましたが、出生届時に0歳～1歳未満児分を交付し、以後申請によ

り翌年に1歳～2歳未満児分、翌々年に2歳～3歳未満児分を交付していくこととしたいと考えております。

※表の中「③」は、指定ごみ袋引換券で交付

見直し項目	現 行	変更案（ <u>下線部</u> が変更点）
乳幼児	① 2歳未満の乳幼児	① <u>3歳未満の乳幼児</u>
	② 1人1回限り	② <u>0歳～1歳未満児1人1回限り</u> <u>1歳～2歳未満児1人1回限り</u> <u>2歳～3歳未満児1人1回限り</u>
	③ 40ℓの袋60枚分 ・交付方法 出生届時に60枚交付。なお、1歳以上2歳未満の幼児の転入の場合は、転入時に30枚交付	③ <u>20ℓの袋180枚分</u> ・交付方法 <u>出生届時に60枚交付。</u> <u>以後申請により、翌年に1歳児分として60枚交付。翌々年に2歳児分として60枚交付</u> <u>また、3歳未満の乳幼児の転入の場合は、転入時に60枚交付（ただし、2歳児の幼児の場合は、おむつをしている場合に限る）。なお、2歳未満の乳幼児の転入の場合は、以後申請により、2歳児まで交付</u>
里帰り出産	① 新生児	① 新生児
	② 1人1回限り	② 1人1回限り
	③ 40ℓの袋10枚分	③ <u>20ℓの袋20枚分</u>
特別障害者 手当受給者	① 手当受給者 ② 年度内1回限り ③ 40ℓの袋60枚分	① 手当受給者 ② 年度内1回限り ③ <u>20ℓの袋120枚分</u>
障害児福祉 手当受給者		
経過的福祉 手当受給者		
おむつ手当 受給者		
障害年金受給者		
介護用品（おむ つ）支給受給者		

食品廃棄物の削減（食品ロス）について

市内の飲食店で食品ロスの減量の取組については、次のとおりです。

1 市内飲食店の状況（別紙資料4）

市内飲食店の食品ロスへの取組について、電話によりアンケート調査を実施しました。

まず、市内にある個人経営店の44店舗の飲食店に確認したところ、小盛りやハーフサイズの設定等利用者の要望に沿った量での提供については、約77%の飲食店が実施しております。また、食べ残した料理に対し、利用者から持ち帰り要望があった場合には、約84%の飲食店で持ち帰りパックの提供等をすると回答がありました。その一方、宴会等では、食べきりの呼びかけ等はほとんど行われていませんでした。ただし、食べきらなかった場合に持ち帰りパックの提供を店側から行っていたのは、約32%でした。

次に、店舗で独自に食品ロス削減に向けて取り組んでいることをお聞きしたところ、全店舗で売り上げ予測に基づく仕入調整をしており、また、テイクアウトができる飲食店では、食料品の重量で販売する量り売りや、個数で販売するばら売りを行ったり、仕込みを作り過ぎない、保存のきく調理法の研究、そばつゆ等の小分け保存、賞味期限・消費期限間近の食材の転用、野菜の端をスープのダシ等に利用する等、食品ロスの削減に取り組んでおります。

なお、市内の飲食店で構成している組合に確認したところ、現在、食品ロスの削減については、各店舗で独自に実施しており組合としては把握していないが、組合として市が行う施策については協力していきたいとのことでした。

次に、市内にあるファミリーレストラン系のチェーン店（ガスト野田店、バーミヤン野田七光台店、餃子の王将野田店等）の12店舗の飲食店に確認したところ、一部商品（お刺身等生鮮食品）を除きますが、容器を提供し持ち帰り希望者への提供等、12店舗全てで既に食品ロスの削減に取り組んでおりました。

【参考：市内飲食店、持ち帰り配達飲食サービス店計466店（平成26年7月1日現在、「野田市統計書」より）】

2 今後の進め方について

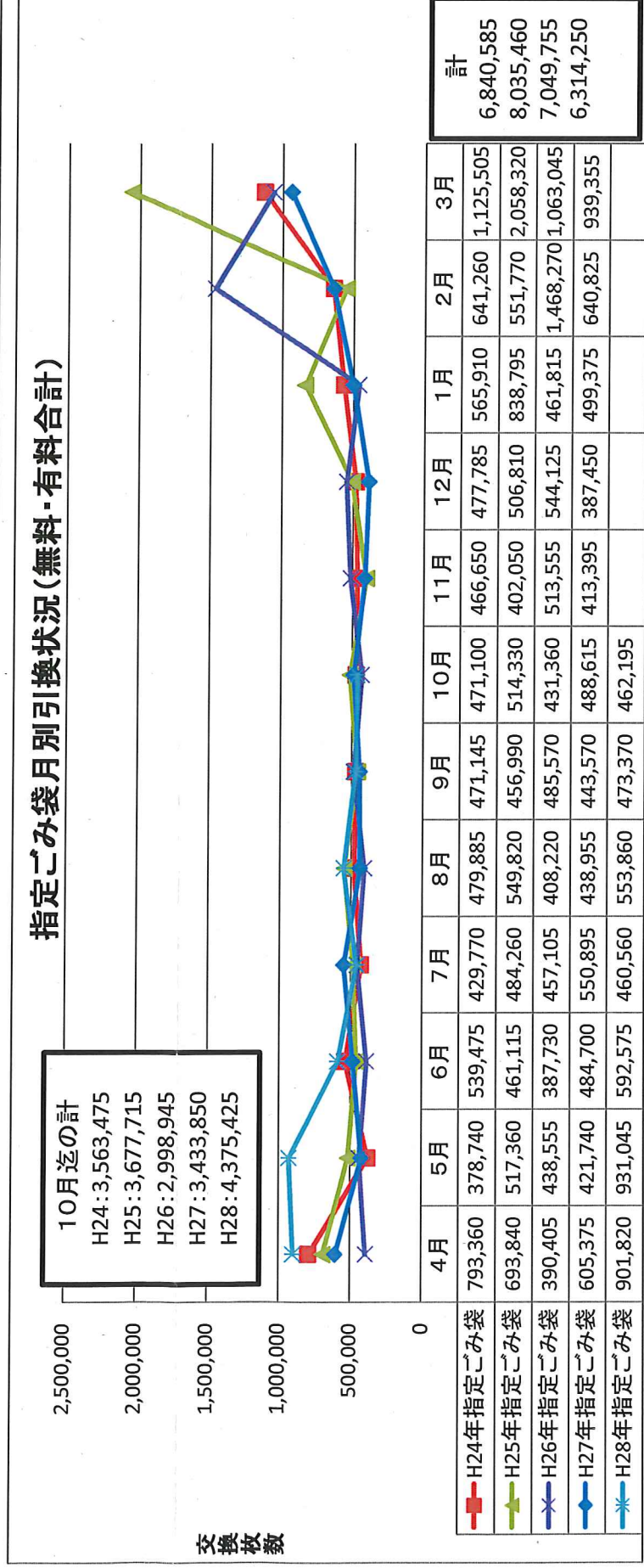
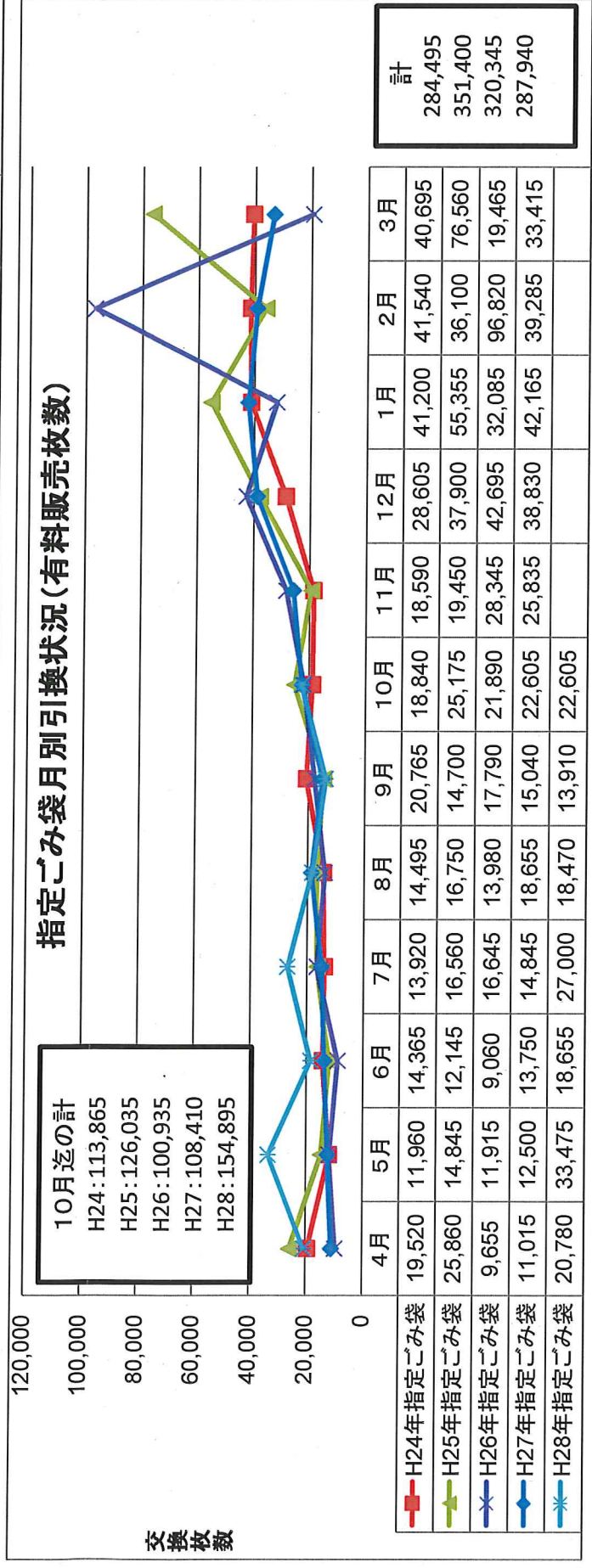
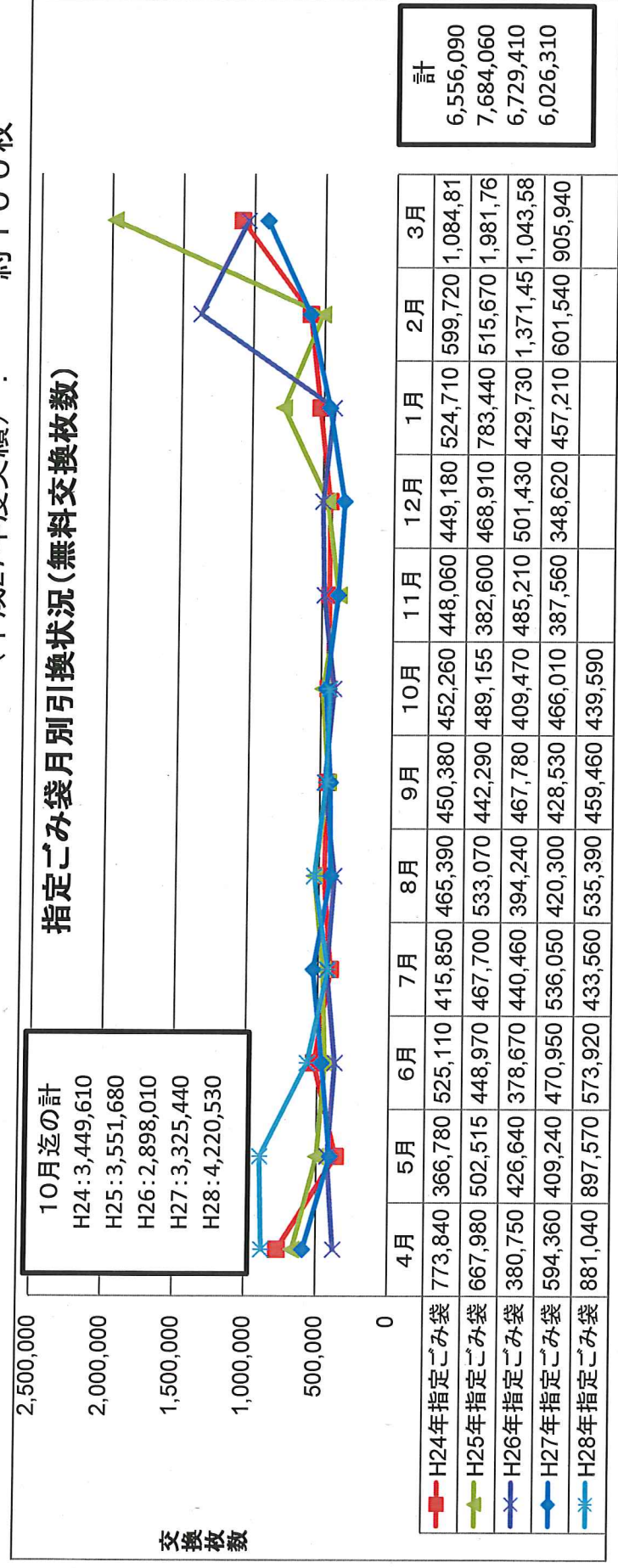
啓発冊子「ごみの出し方資源の出し方」では、市民に対し食品ロス削減の啓発として、買い物や調理をするときの方策、また、賞味期限や消費期限の違い等を掲載しておりますが、今後、市内で食品ロスを減らす取組を行っている飲食店をホームページや市報等で紹介するとともに、行っていない飲食店については、市から取組み事例等を紹介し働きかけたいと考えております。

指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについて
指定ごみ袋無料配布枚数・有料販売枚数推移

●指定ごみ袋無料配布枚数120枚の時の引換枚数

- (平成26年度実績) : 約105枚
- (平成27年度実績) : 約93枚
- (平成26年度実績) : 約90枚
- (平成27年度実績) : 約82枚
- (平成26年度実績) : 約109枚
- (平成27年度実績) : 約97枚
- (平成26年度実績) : 約121枚
- (平成27年度実績) : 約100枚

◎容量別世帯毎の指定ごみ袋無料引換枚数



農家世帯に対するアンケート調査結果

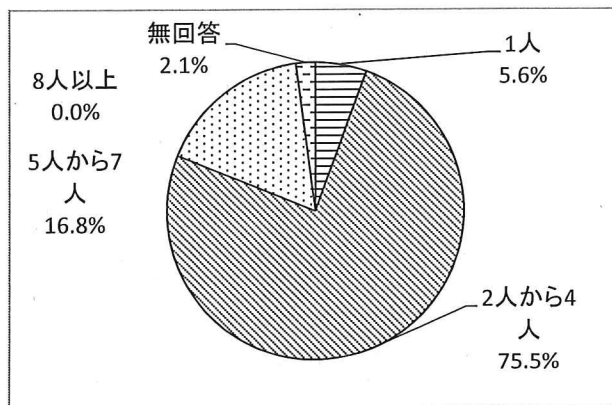
●農家世帯の指定ごみ無料配布枚数の引換枚数

約 99 枚

- ・農家組合長の 171 世帯に対してアンケート調査を実施しました。
- ・市内の農家世帯数は、1,747 世帯です。(平成27年度農業センサスより)

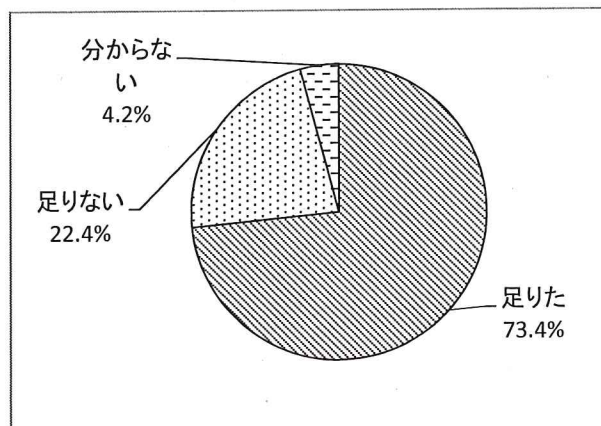
1 世帯の人数は、何人ですか。

選択枝	回答	割合
1人	8	5.6%
2人から4人	108	75.5%
5人から7人	24	16.8%
8人以上	0	0.0%
無回答	3	2.1%
回答数	143	



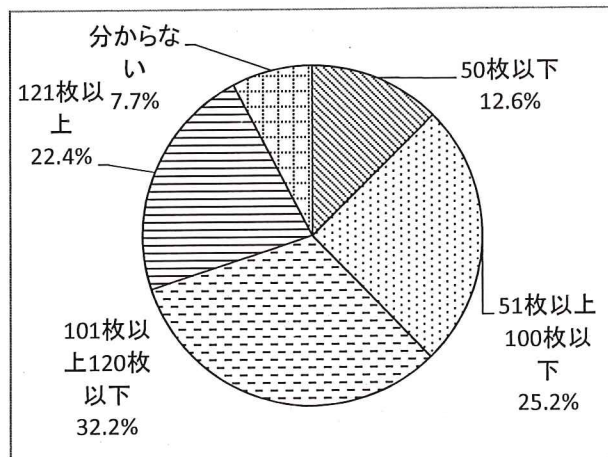
2 27年度は、無料指定ごみ袋分で足りましたか。

選択枝	回答	割合
足りた	105	73.4%
足りない	32	22.4%
分からない	6	4.2%
回答数	143	



3 無料指定ごみ袋を何枚使用しましたか。

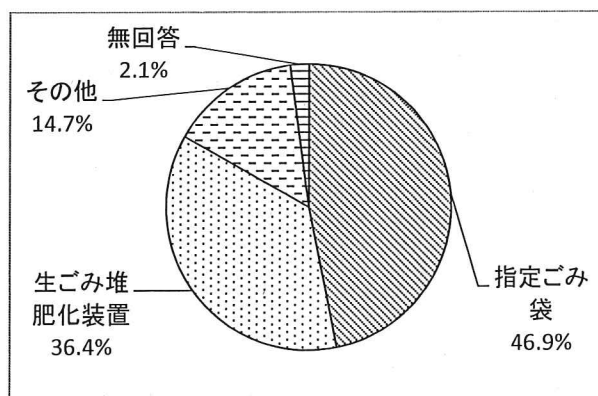
選択枝	回答	割合
50枚以下	18	12.6%
51枚以上100枚以下	36	25.2%
101枚以上120枚以下	46	32.2%
121枚以上	32	22.4%
分からない	11	7.6%
回答数	143	



・使用枚数: 13,124枚(世帯数132世帯)

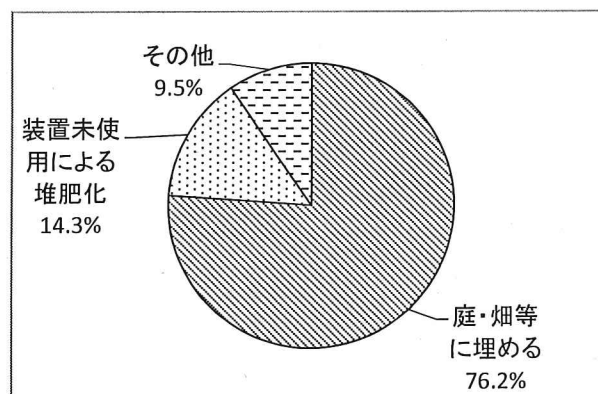
4-1 生ごみをどう処分しましたか。

選択枝	回答	割合
指定ごみ袋	67	46.9%
生ごみ堆肥化装置	52	36.4%
その他	21	14.7%
無回答	3	2.0%
回答数	143	



4-2 「その他」場合の主な処分方法

選択枝	回答	割合
庭・畑等に埋める	16	76.2%
装置未使用による堆肥化	3	14.3%
その他	2	9.5%
回答数	21	



おむつをしている2・3歳保育園児に係るアンケート調査結果

1 調査概要

市内にある21保育所（園）に対して、2・3歳児がおむつをしている実態数を調査しました。

2 調査結果

(1) 2歳児では、57.9%の乳幼児がおむつをしています。

(2) 3歳児では、11.4%の乳幼児がおむつをしています。

3 市内21保育所等の調査結果一覧

No.	保育所（園）名	2歳児 人数	2歳児おむ つ使用人数	3歳児 人数	3歳児おむ つ使用人数	トイレトレーニング 開始年齢
1	コベープリスカールのだ保育園	11人	0人	11人	0人	2歳6カ月
2	コベープリスカールあたご保育園	24人	15人	30人	0人	1歳10カ月
3	コベープリスカールさくらのさと保育園	17人	1人	17人	0人	2歳
4	コベープリスカールせきやど保育園	12人	12人	16人	0人	1歳6カ月
5	アスク七光台保育園	15人	14人	13人	2人	3歳
6	アスク川間保育園	11人	11人	20人	10人	2歳
7	アスク古布内保育園	17人	5人	17人	0人	1歳
8	聖華保育園	16人	0人	15人	0人	2歳
9	すくすく保育園	16人	9人	21人	6人	2歳6カ月
10	すくすく保育園分園	4人	0人	0人	0人	2歳6カ月
11	ひばり保育園	18人	17人	4人	0人	3歳
12	乳児保育所	12人	12人	0人	0人	2歳6カ月
13	福田保育所	12人	7人	24人	12人	1歳6カ月
14	南部保育所	30人	13人	31人	0人	2歳
15	花輪保育所	12人	12人	9人	2人	2歳
16	東部保育所	18人	13人	22人	5人	1歳6カ月
17	中根保育所	36人	13人	40人	0人	1歳6カ月
18	清水保育所	30人	11人	30人	3人	1歳6カ月
19	尾崎保育所	26人	19人	24人	0人	1歳6カ月
20	北部保育所	11人	11人	21人	2人	2歳
21	木間ヶ瀬保育所	18人	17人	21人	2人	1歳3カ月
合 計		366人	212人	386人	44人	
おむつをしている割合		2歳児	57.9%	3歳児	11.4%	

H28.10調査

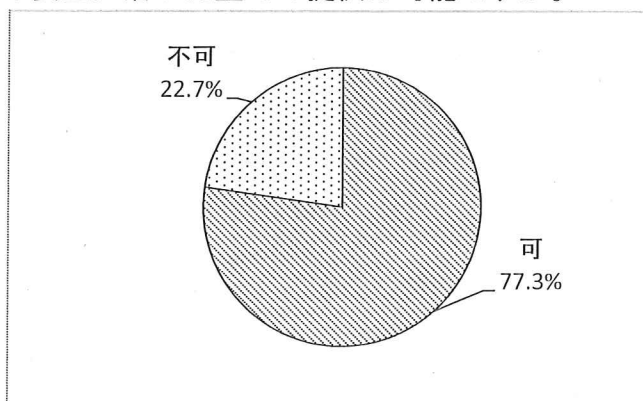
飲食店に対するアンケート調査結果

1 小盛り、ハーフサイズの設定など利用者の要望に沿った量での提供は可能ですか。

回答種目	回答数	割合
可	34	77.3%
不可	10	22.7%
計	44	

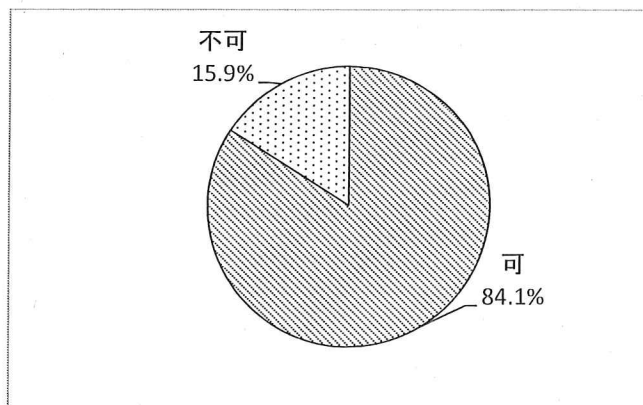
主な業種

そば・うどん店、中華、イタリア料理、
弁当、その他飲食店



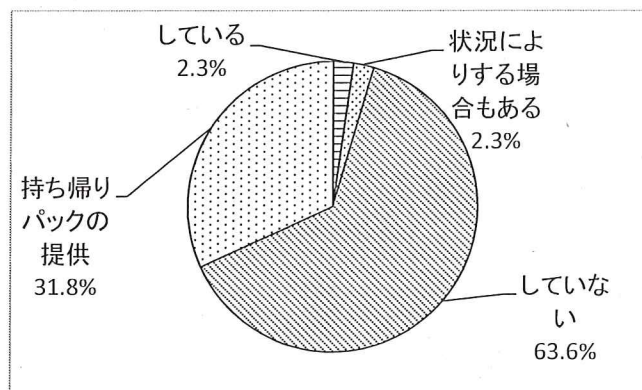
2 食べ残した料理に利用者から持ち帰り要望があった場合、対応できますか。

回答種目	回答数	割合
可	37	84.1%
不可	7	15.9%
計	44	



3 宴会等で食べきりの呼びかけなどをしていますか。

回答種目	回答数	割合
している	1	2.3%
状況によりする場合もある	1	2.3%
していない	28	63.6%
持ち帰りパックの提供	14	31.8%
計	44	



4 店舗で独自に食品ロス削減に向けて取り組んでいることはありますか。

- ・仕入調整をしている。
- ・食料品の重量で販売する量り売りや、個数で販売するばら売りを行っている。
- ・仕込みを作り過ぎない。
- ・保存のきく調理法の研究をする。
- ・そばつゆの小分け保存。
- ・賞味期限・消費期限間近の食材の転用。
- ・野菜の端をスープのダシ等に利用する。